

新春 平成29年元旦 新年のあいさつ



和水町長 福原 秀治

新年あけましておめでとうございます。町民の皆様方におかれましては、お健やかに佳き新春をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。平成29年の念頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。皆様には、平素より町政に対する温かいご理解・ご協力・ご尽力をいただき誠にありがとうございます。心からの感謝とともに、厚く御礼を申し上げます。

誕生から十年が過ぎた和水町は、人口減少の続く中ではありますが、活性化と町の再生を期し、新しい年に向けて、全力で取り組んで参りますので、皆様方におかれましては、なお一層のお力添えを賜りますよう、何卒、よろしくお願い申し上げます。さて、平成28年を振り返りますと、まずは4月の熊本地震と、これに追い打ちを掛けるような6月の豪雨被害が最大の出来事でありました。益城町を中心とする震央地周辺の惨状は言葉を絶するものであり、熊本県全域に対し全国各地から大きな応援・支

援をいただきました。ようやく復旧・復興の緒には就いたものの、平穏な日常に戻るには時間がかかると思いが、本町としてもできる限りの応援を続けていかなければならないと考えております。

和水町でも一部損壊を含め、百棟余りの住宅損傷と公共施設の損傷、道路・農地・林地等への多くの被害が発生いたしました。特に、菊水中学校・菊水中央小学校児童・生徒の皆さんには、一時的ではあれ、避難授業をお願いすることになり、また、玉名八女線の矢部谷峠では、現在も通行止めが続いております。人身に被害がなかったことが何よりでありましたけれども、ご不便に対するお詫びとともに、一連の災害に際し、ご協力・ご支援を賜りました町民の皆様へ改めての御礼を申し上げます。町の復旧事業に向けて懸命に取り組んでおりますので、ご理解・ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

また、長期にわたり、ご心配をおかけいたして参りました菊水地区小・中学校の校舎建設につきましては、住民投票により方向性をお示しいただきました。この上は、投票結果を尊重し、議会のご協力を得ながら、円滑な事業推進と一刻も早い菊水地区四小学校の統合実現を目指して参りたいと思っております。



また、「賑わいのある町」の創出に向け、交流人口増加に向けた観光拠点の充実、総合グラウンド周辺の有効利用、地域資源を活用した6次産業化の推進、地域公共交通（お出かけ交通）運行、移住・定住の推進などに取り組んで参ります。

また、町民の暮らしの安心を支える医療・福祉、本町の基幹産業である農業・林業振興、企業誘致をはじめとする定住・雇用対策や子育て支援、商工関連の活性化などの諸課題に対して、町民の皆様や議会のご協力をいただきながら、職員とともに、全力を尽くして参りますので一層のご支援・お力添えを賜りますよう、重ねてのお願いを申し上げます。

結びに、町民の皆様の本年的ご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



和水町議会議長 杉本 和彰

新年あけましておめでとうございます。町民の皆様方におかれましては、希望に満ちた平成29年の新春を、晴れやかに迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

年頭に当たり、議会を代表しまして謹んで新年のご挨拶を申し上げます。日頃より町政に対し、深いご理解とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。さて、昨年は菊水地区学校統廃合につきましましては、住民投票にて方向性が定まったところです。本町の将来を見据え、輝かしい未来に向け、新たな第一歩を踏み出す一里塚ともなる年でありました。きくすい荘・町立病院の運営などたくさん課題も抱えており議会の役割も重要となっております。

また、熊本地震や大雨と大きな被害が出ております。復旧・復興をお祈りいたします。議会としましては町民の安心・安全そして命を守る義務があることを痛感しております。同時に厳しい環境を乗り越え、魅力あるまちづくりを進めていくためには、時代を見据えた情報分析に力点を置き、執行部と

互いに知恵を出し合いながら町民参画の町政運営に取り組まなければなりません。私たち議会にも新たな時代感覚と崇高なビジョンを持って一翼を担っていくことが求められております。決して、次代を担う子どもたちに負担を残してはいけません。私たちは、責任世代としての役割をしっかりと担い、町民一人ひとりが誇り高く、「この町に住んで良かった」と実感できるまちづくりをこれからも全力を傾注してまいります。

また国には、人口減少の克服と地方創生のため、町村が自主性・独自性を発揮し、様々な施策を着実に進めることができるよう、「まち・ひと・しごと創生事業」の拡充を求めております。町政の課題解決に向けて、全力を尽くしてまいりますので、なお一層のご支援、御協力を賜りますよう、心からお願ひ申し上げます。

結びに、町民の皆さんにとりまして、本年が輝かしい一年となりますことを心よりご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



和水町病院 事業管理者（院長） 志垣 信行

新年あけましておめでとうございます。町民の皆様さまも健やかに新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年は熊本地震という大きな災害が発生し、熊本にとって激動の年となりましたが、和水町立病院も予期しないことが起こり、大変な年となりました。

平成27年度までは常勤医として内科3名、外科2名、計5名が勤務していましたが、内科医1名の退職にともない、平成28年度は常勤医4名で診療にあたる予定でございました。しかし、昨年3月に内科医1名が長期の病氣療養となったため、昨年の4月には常勤医が3名になってしまいました。3名では日々の診療を今まで通りに続けるのは困難であり、日・当直も3名で担当するのは不可能でした。

そのため熊本大学代謝内科医局、皮膚科医局、公立玉名中央病院などから応援をいただき、厳しい時もありましたが、どうにか現在まで診療を続けております。しかし以前と同様には診療ができないため、内視鏡検査・腹部エコー

検査の件数を制限し、できるだけ診察に時間を充てるよう努力している状態です。それでも診察しながら検査を行わなければならないことも多く、患者さんの待ち時間も増えていると思っております。この状態がどれだけ続くのか判りませんが、来年度（今年4月）からは常勤医を1名確保できるよう大学病院にお願ひしているところです。

当院には長期入院が可能な療養病床があり、療養病床には医療型と介護型の2種類があります。当院の介護型病床は12床ですがこの病床は平成29年度いっぱいだけでなくあります。今年度で作成する新公立病院改革プランでも病床数削減は必須であり、病床数を現在の91床から減らす必要に迫られています。住民の皆さんに迷惑がからず、経営的にも有利な病床数はどれくらいなのか、療養病床は残すのか？どのよう機能を持つ病床にするか現在模索中です。

その他いろいろ難問を抱えておりますが、地域医療を守るために今年も頑張っていきたいと考えております。よろしくお願ひ申し上げます。